



光の子だより

令和5年10月31日
千葉市立作新小学校
校長 遊間 京子

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたく たくましい」子どもの育成

☆期待する子ども像☆自ら学び、よく考える「かしこい」子ども
☆思いやりのある心豊かな「あたたかい」子ども
☆丈夫な心と体を持つ「たくましい」子ども

「可能性」

子どもたちの未来や可能性は無限に広がっているのですが、子どもたちは夢や目標をもって生活していこうとしているのでしょうか？

来年、2024`に開催されるパリオリンピックに向け、各種目の予選や選考試合において日本代表が必死に闘っている姿に感動しています。バレーボールやバスケットボールもオリンピックへの出場権をつかみ取りました。選手たちは小さい頃から夢に向かって努力を重ねた結果、現在に至っています。夢や目標が必ず実現するかはわかりませんが、実現できるように努力したことは間違いなく自分を大きく成長させて、次の世界へと進むことができます。努力を積み重ねることが何より大切だと思います。私たち大人は、子どもたちが、自分の中で「もう無理だ」と限界を決めずに、「努力」し続けられるように励まして支えてあげられるようにしていきたいものです。

11月は「霜月」という文字通り霜が降りる月です。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋と何をするにも集中して打ち込みやすい季節です。秋には各地でたくさんイベントもあります。興味・関心のあるものにじっくり取り組むことができる時間をつくるのが、自分を高めることにつながります。

「陸上大会」

10月23日(月)に壮行会が行われました。壮行会での話の一部を紹介します。『自分を高める時間「より速く、より高く、より遠くへ」挑戦できましたか？忘れてほしくないことは、練習でお世話になったコーチや先生方への感謝の気持ちです。人は、苦しいところを自分の力で乗り越えたときに、本当の力がつくと思います。「苦しいなあ、やめちゃおうかな？」とくじけそうなときに、自分に負けないでやりきる。そんな場面を経験して、選手として強くなっていると思います。陸上競技では、どの種目も記録という数字にあらわれます。これまで出した「記録」を上回って、大会で自己ベスト記録が出るように祈ります。今持っている力を出し切ってきてください。』



陸上大会は10月25日(水)に中央、花見川、稲毛区の3区が集まる中、大きな学校の集まるAブロックで出場しました。会場では、工夫してウォームアップをする姿や他校へ挨拶する姿がありました。また、見えない敵である自分に負けないように必死で闘っている選手の姿から、やり切った達成感が感じられました。「自己ベストを出すことができたよ。」という声もあり、この短期間で大きな成長を遂げている子どもたちを誇らしく思いました。

「学習参観」

保護者の方々に学校での学習の様子を参観していただける機会は年に3回で6月・10月・2月にあります。学年や学級全体の様子も含めて、お子様の成長を感じてもらえたら幸いです。どの子も自分が頑張っている姿を見てもらいたいもの。「みてるよ」と子ども自身が感じられたら、真っすぐ健全に育っていくと思います。ご家庭では、ぜひ少しでも努力している姿や変化に触れてもらい、話題にしてください。

「がんばらない」

子どもに「がんばれ」と声をかけることが多いのですが、がんばり続ける合間には、がんばらない時必要で脱力をしたいもの。特に、心と身体のエネルギーが少ない時はがんばらないことが大切です。

「10月12日(木)全校遠足」

学年を超えた絆が深まりました。

